

優秀賞

# ドライバーの健康管理と管理者の使命

(東北) 宮城エクスプレス(株)

宇都宮 光博

自分自身、管理者として、二度と起こしたくないと思った体験があります。あれは7年前の4月25日AM1:00の深夜、私に一本の電話がありました。

「常務！Mさんが荷卸し中に倒れて、心肺が停止しています！」

という当社のドライバーからの一報で受けた時は、何が起こったのか分からない状況でした。その時連絡をくれたドライバーからの、「Mさんの顔色が紫色に変色している」という話から、大阪の市場内での緊迫した時間が想像されました。

大阪市場にはAEDが常備されており、そのAEDを使用して緊急病棟へ搬送されたことを、ドライバーが倒れてから1時間後に教えてもらいました。

次の日の朝、ドライバーMさんの家族を会社に招き、現状を報告し、次のアクションとして私とMさんの身内とで急いで大阪の病院に向かいました。

病院に着くと集中治療室に移動され、全身に管が巻かれて寝ているMさんの姿を目の当たりにしました。その姿を見た時の背筋が凍りつく感覚を今でも覚えています。

彼は糖尿病を患っており、医者には定期的に通っていたため、心のどこかでは安心していましたが、この状況を見た時に、もっと適切なアドバイスができていれば、今回のような状況を未然に防ぐことが出来たのではないかと感じる部分が多くありました。

医師からの話では、心肺停止が5分以内であったこと、AEDを使用しての適切な処置があったことが最悪な状況を免れた要因でした。

また、大阪市場内から搬送された病院まで距離が短かったことで緊急手術がすぐに施すことができたことも、一命をとりとめることが出来た要因でした。

心肺停止という最悪の状況の中で、運の良い状況が重なったお陰でドライバーの一命をとりとめることが出来たのが、本当に幸運であったと感じました。

Mさんには、その病気の後も定期的に病院に通い、適切なアドバイスを受けながら継続的に働いていただいております。

日本においてトラックドライバーは、脳・心臓疾患による過労死や健康起因事故が多い職種です。

またトラックドライバーは、脳・心臓疾患リスクである高血圧症、肥満、高脂血症、糖尿病に関連する項目の定期健診での有所見率も高いという結果が出ています。

その要因の一つとして、ドライバーの健康障害および過労状態と有意な関連のある夜間早朝勤務への従事や、夜間運転の負担の重さがあると示唆されています。

その過酷な労働状況ゆえ、長距離トラックドライバーには、年2回健康診断の受診が義務付けられています。人の身体は、様々な環境によって変化していきます。医師の診断で、病気の根源をいち早く見つけ、長くドライバーを続けられる環境を整えていくことも、管理者として必要不可欠な役割です。

現在の長距離ドライバーは、高齢化が進んでいる状況もあり、健康起因による事故が後を絶ちません。仮に運行している状況下で急に体調が悪くなり、気を失ってしまった場合、取り返しのつ

かない大事故へと繋がっていくこともあるため、もし今回のドライバーのMさんが、運転中に意識を失っていたらと思うと身の毛のよだつ恐怖を感じました。

これからもトラックドライバー全員に長く務めていただくために、毎年2回の健康診断の受診とその健康診断結果からの産業医のアドバイスを受けさせていきます。

そして、健康起因によるリスクを極力減らし、社員の命を守っていくことが、その家族の生活を 守ることに繋がることを肝に銘じて、ドライバーの健康を確りと管理していきます。